

1999年6月30日付け

政府決定第105号の

付録1

「白い革命」国家ガイドライン

第1章 概要

1. 牛乳・乳製品の生産、供給の現状

近年における家畜頭数の増加に伴って牛乳・乳製品の生産する機会と資源が増えている。家畜が私有化され、自由市場経済の環境が誕生し、家畜を持っている国民はその家畜の乳で作った牛乳・乳製品を販売し利益を得るよい環境が整備され始めている。

伝統的な手法で作られた乳製品の市場が誕生し、年々に拡大している。しかし、地方では搾乳されるべき家畜のすべてから搾乳ができないから牛乳資源が失われている。また、牛乳・乳製品の加工・生産・販売制度が未整備である。

機械化された酪農場が分散され、牛乳を一年中に生産、供給する技術が崩れ、乳牛の頭数、生産性が下落した。これにより首都、アイマッグ庁所在地の市民、特に敏感階級の牛乳供給に大きな悪影響を与えている。国内にバターを生産していた制度が崩壊し、輸入バター、バター類品が市場に大きな割合を占めている。

1991年から小規模の牛乳の加工・生産工場の数が増加する傾向にあるが、運転資本の不足から工場の稼働可能性が限られ、外国産の原材料を使うアイスクリームの製造・販売所が増えている。従って、生乳を販売することが急増している。法人や個人が乾燥、濃厚化させた牛乳、チーズ、多種のヨーグルト、アイスクリームを海外から輸入していることは国内の牛乳・乳製品の生産の回復に大きな障壁となっている。

生産・供給の現状から見ると、国内にある資源を効率的に利用して牛乳・乳製品を生産・供給し、牛乳市場を循環させる制度の構築に対して行政府からの政策、調整が必要となっている。

2. ガイドラインを作成する根拠、必要性

農産業の労働力の供給が改善され、家畜頭数の増加が安定していることに基づいて家畜の乳の利用を改善させ、生産工程を向上させ、牛乳・乳製品の生産、供給を増加させるために個人、法人、政府機関および非政府機関の活動を促進し、これに関する行政府の政策を明らかにする。

モンゴル国食品法、政府の計画に含まれた国民に食品安全性のある製品を提供し、生活環境を改善させ、食生活に占める牛乳・乳製品の割合を高め、さらに生理的な要求を満たす栄養要素、アミノ酸、ビタミンを食品を通して与える目的で牛乳・乳製品の生産量、供給

量を増加させる。ここにこのガイドラインの根拠と必要性がある。

第2章 ガイドラインの目的、目標

3. 畜産業生産の潜在的な能力を十分に発揮し、牛乳・乳製品づくりを営んできた伝統を回復させ、中小企業を発展させ、製品の市場への供給制度を構成することによって国民への牛乳・乳製品の供給を改善させ、遊牧民、地方住民の所得を増加させ、地方に新しい仕事場を提供する行政府の政策を執行することはこのガイドラインの目的である。

4. ガイドラインの目標

4.1. 第一目標は、放牧産業の牛乳資源に基づいて伝統的な乳製品、乾燥・濃厚化された牛乳、いくつかの種の硬いチーズ、などの長時間保持できる製品、バターを生産する中小企業を地方に発展させ、製品の集中市場への供給量を安定的に増加させる環境をつくることである。

4.2. 第二目標は、首都、アイマッグ庁所在地、およびその他の人口が密集している区域の付近に効率的な酪農場を復帰させる、または新しく建設し発展させ、牛乳・乳製品の生産に特化した民間法人を支援し、その活動を効率化させることによって人口が密集する区域への牛乳・乳製品の供給量を増加させることである。

4.3. 第三目標は、首都およびその他の人口が密集する区域に、国民の健康・衛生に適合した、高品質な牛乳・乳製品を供給する目的の中小企業を設立・発展させ、さらに乾燥・濃厚化された牛乳で国内需要を完全に満たし、これと同時にタンパク質、カゼイン、カゼイン塩、乾燥馬乳などの製品を輸出する環境をつくることである。

第3章 ガイドラインを執行する基本的な方針、解決する問題

5. 第一目標を達成するために以下の諸措置をとり、それに関する問題を解決する。

5.1. アイマッグ、ソム、町の庁所在地の仕事についてない市民および少頭数の家畜を保有する人々に人手の不足している家計の搾乳作業を手伝わせる運動実施し、搾乳家畜の頭数を増加させる。

5.2. 牛乳生産に積極的に努力し、市場に牛乳・乳製品を安定的に供給している市民を激励し、融資、投資政策などで支援する。

5.3. 家畜を保有する個人および法人が互いに協力して牛乳・乳製品の生産、貯蔵、運送、販売することを区域行政府が全面的に支援する。

5.4. バター生産を行っていた工場の建物、機械を修理・再利用する、いくつかの機械を国内で生産する、この分野の専門的な人材・専門家を育成し、働かせるなどの措置を実

施し、バター、乳製品の生産を回復させる、また新しく設立する。

5.5. 家庭および酪農場でバター、乳製品の生産するために必要な容器、包装材、機械を生産する、又は海外から輸入する法人の間に入札を行った上で資金援助を行う。

5.6. 牛乳資源のあるソムでは、小規模の移動式な機械を利用して濃厚化・粉ミルクを生産する活動を行い、乾燥・濃厚化された牛乳、タンパク質、カゼイン塩を生産し、輸出する環境を与える。

5.7. 馬乳、ラクダ乳、およびヤック乳、小型家畜（羊、ヤギ）乳の加工に特化した工場、治療施設、ツーリスト・キャンプを建設・運営する入札を行い、それを執行する。

5.8. 牛乳・乳製品に関する研究を行っている研究所と提携し、研究、実験の成果を生産に結び付ける。

5.9. 遠く離れた所で生産された乳製品を市場に供給する制度を個人、家計、集落からソムへ、アイマッグの商社から都市へ、都市の市場、販売店から消費者へという形で段階的に組織し、製品の品質を保持するための冷蔵設備を提供する。

6. 第二目標を達成するために以下の諸措置をとり、それに関する問題を解決する。

6.1. 首都、アイマック庁所在地付近に効率的な酪農場を運営する目的の限られた土地の境界線を特定し、牛乳用酪農家（私有地、私的資本に基づいた独立した生産、サービス業を営んで製品を市場に供給できる家計を酪農家とみなす）、および酪農場間組合に草刈り用土地、遊牧地、農業地の所有権を与え、法的に保証する。

6.2. 現在、業績を上げている家庭単位法人に対して優先的に土地所有権を与え、これらの組織運営の強化を支援する。

6.3. 国内および外国の投資、資金、援助資金を利用して首都およびアイマック庁所在地付近に 25-50 頭の乳牛収容能力の酪農場を新しくつくる方針で入札を行い、それを実施する。

6.4. 酪農場にはハル・タルラン種、アラタウ種、シャル・タルラン種などの乳牛を飼育し、1頭から1年に2500リットル以上の牛乳を生産する意欲を税制によって与える。

6.5. 酪農場の飼料生産を発展させ、新機械、技術を導入し、酪農場間組合結成の支援することによって一年中に牛乳の生産を安定化させる環境をつくり、それを習慣とさせる。

6.6. ソム、アイマック庁所在地の家庭に乳ヤギを飼育させる措置をとり、支援する。

6.7. 都市付近の酪農場の共同冷蔵所を回復させる、また新しく建設する。

6.8. 都市、アイマック庁所在地に牛乳・乳製品の専門市場、販売店をつくり、検査を受けてない牛乳・乳製品の販売を阻止する措置をとる。

6.9. 牛乳工場能力の利用を向上させると同時に中小企業の発展を促進する。

6.10. 酪農場に牛乳を殺菌、乾燥、一次的な加工を行う、チーズ製造、バター製造をする機械を導入し、長時間保持できる製品の生産を支援する。

7. 第三目標を達成するために以下の諸措置をとり、それに関する問題を解決する。

7.1. 首都、アイマック庁所在地およびその他の人口が密集する区域に前に利用されていた牛乳加工工場を回復させ、それらへの新技術導入を支援する。

7.2. 首都およびその他の人口が密集する区域に現在稼働している小規模の牛乳加工工場の運営を投資、融資、税政策によって支援し、これを研修・生産のモデルにし、今後このような工場を多くつくる方針を持つ。

7.3. 乳児用乳製品、治療用乳製品の生産者の生産活動を支援し、発展させる。

7.4. 人口が密集する区域の生産基地に基づいていくつかの種類の柔らかいチーズ、低脂肪バター、殺菌牛乳、長時間保持できるヨーグルト、酪（チーズの一種）、生クリームを生産する技術を導入し、生産者と研究所の共同作業を発展させることによって地方に牛乳を加工する新しい技術を導入させる措置をとる。

7.5. 牛乳生産の大型工場に牛乳を殺菌する、小売用容器に詰める技術を導入させる措置をとる。

7.6. 地方から集中市場に供給されている乳製品を正しい方法で保存し、小売用容器に詰め、人口の密集する区域に乳製品の専門市場・販売店、サービス店をつくり、乳製品食堂をつくるなど牛乳・乳製品の品質を落とすことなく消費者に届ける措置をとる。

7.7. 輸入されている乳製品および市場で販売されている牛乳、バター、乳製品またこれらの代替品の品質、衛生管理に対する検査を強化し、農業・産業・商業および国家健康検査機関の協同作業を改善する。

第4章 ガイドライン執行に関する政府および非政府機関の責務、方策

8. ガイドライン執行に際して政府がとる措置を決定させ、各省庁間の行動を調和させる役割を農業産業省が果たし、牛乳・乳製品の生産・供給量を増加させるため政府政策の範囲内に以下の諸措置をとる。

8.1. このガイドラインの執行において「家畜の種質、血統作業を改善させる」、「緑革命」、「家畜の健康」、「貧困削減基金」、「輸出向け生産を支援する」、「失業率を減少させる国家計画」など国家計画と関連つけて分析・評価し、情報を提供する

8.2. 効率的な酪農場に決済、税負担を軽減する法的制度をつくる。

8.3. 牛乳、バター、乳製品を生産する酪農場、中小企業を回復・革新させる、新しくつくる入札を行い、出資問題を解決する。

8.4. 首都、アイマック庁所在地、ソムに牛乳・乳製品のモデル工場をつくり、研修、広告の基地として利用するために融資、投資、専門的・技術的に支援する。

8.5. ガイドライン執行のための諸措置をとるために国際プロジェクト、援助国の融資を利用できるようにする。

9. 農業の執行機関

9.1. ガイドラインの措置に伴って中・長期の計画を作成し、関連する機関と協力して資金源を見つけ執行する。

9.2. 牛乳・乳製品を生産している個人、法人、組合が機械、設備、容器、包装材、原材料、飼料植物の種など必要な運転資本及び固定資本を入手できるようにするための措置をとる。

9.3. 牛乳・乳製品生産者を会計情報システムに入れ、牛乳・乳製品の生産量のデータを地方から収集、集計し、公表する。

9.4. 酪農家が、品種のよいオス、メスの繁殖家畜を入手するために、冷凍卵子を利用するなどバイオ技術の導入を支援し、仲介する。

9.5. 効率的な酪農場が家畜をブルセラ病、結核病から家畜を予防する措置を優先的にとる。

10. アイマック、首都、ソム、町の知事

10.1. 区域の特徴に適合した「白い革命」副ガイドラインを作成、執行する措置をとる。

10.2. 都市、アイマック庁所在地および人口が密集する大きな区域の市民の牛乳・乳製品の供給を改善させるために効率的な酪農場を発展させる目的の土地の境界線を特定し、他の家畜が入所を阻止する措置をとる。

10.3. 「白い革命」ガイドライン執行に関する費用の計算、資金調達する措置をとる。

10.4. すべての家畜を搾乳する運動を全市民の行動に拡大させ、市民の失業の減少、貧困削減にと関連つけて執行する。

10.5. 牛乳・乳製品の生産に市民を訓練し、この工程の手順・手法、結果を支援し、その運動を広告するためにマスコミと協力する。

10.6. 牛乳・乳製品の祭り、展示会、「乳製品食事の日」などをたびたびに開催し、より多くの市民を参加させる。

11. 民間企業

11.1. ガイドラインは民間の畜産業者、牛乳・乳製品を生産している個人、法人に基づいて執行される。

11.2. 牛乳用酪農場、牛乳・乳製品生産、乳製品関連サービス業に投資する。

11.3. ガイドラインに含まれる諸政策の範囲内で資金を調達する計画を作成し入札に参加し、計画を執行する。

11.4. 牛乳資源を利用する、仕事場を増やす、乳製品、バターを生産に関して政府機

関および非政府機関と協力する。

12. 非政府機関

12.1 牛乳・乳製品生産者の仕事場の環境、労働保護を改善させ、仕事のノルマ、基準を設定するために政府と協力する。

12.2. 市場のニーズ、需要に基づいて新しい機械、近代的な技術を導入するために外国および国内の関心を持っている者と結び付け、仲介し、支援し、専門的なアドバイスを
する。

12.3. 製品の生産、品質を奨励し、技術者の技術能力を競う大会を開催し、広告し、
展示・販売会、研修・セミナーの開催に関して関連する個人、機関と協力する。

12.4. 牛乳・乳製品の食品安全性に対して監視し、明らかになった問題点を関連する
機関に報告する。

第5章 ガイドライン執行の監視、組織

13. ガイドラインの執行過程を全国的に管理する行政府機関に手伝いをする目的で非
常勤の国家委員会が活動する。国家委員会は以下の責務を有する。

13.1. ガイドラインの目標を達成させるために年毎の総合計画によって指導し、監視し、
結果を評価する。

13.2. ガイドラインを地方で執行する責務のある各アイマック、首都の支部委員会を指
導する。

13.3. 地方委員会はガイドラインの執行状況を毎年
の第 4 四半期にガイドライン委員会に、ガイドライン委員会が毎年政府に報告する。

第6章 ガイドラインの融資

14. ガイドラインを執行するために必要な資金源の大部分は生産者、サービス業者、
個人の自己資本である。

15. 実験的及びモデル酪農場、小規模な生産工場を建設する、回復させる、近代的な
技術の導入などに以下の資金源を利用することができる。必要な資金勘定を表にて付録す
る。

- イ) 個人、法人、組織の自己資本
- ロ) 援助国、国際機関の融資、援助金
- ハ) 中小企業の開発基金
- ニ) 貧困削減基金

- ホ) ウランバートル基金
- ヘ) 仕事場を増加させるプロジェクト
- ト) 非政府機関の援助

第7章 ガイドラインを実施する期間、段階、評価

16. このガイドラインを1999年-2004年末までの5年間に2段階で執行する。各段階における仕事と目標を以下の基準で評価する。

16.1. 第1段階は1999年-2000年までである。この段階には以下の仕事をする。

- イ) 地方に牛乳資源を完全に利用する運動を起こし、伝統的な乳製品生産が急速に回復し、酪農場の基本的な組織が形成され、活動を始める。
- ロ) 首都及び大都市付近の牧草地の特定境界線を設定し、牛乳用効率的な酪農場を発展させる基礎をつくる。
- ハ) 酪農場経営者に牧草地の所有権を与え、保証する仕事を始める。これらの形成途上の酪農場を支援し、適切な規模、構造の酪農場を発展させるのとともに民間の小規模のところを酪農場の規模にする準備をする。
- ニ) 多種の家畜の乳を加工し、容器詰めする「モデル」工場をウランバートルおよびいくつかのアイマック、ソムの庁所在地につくる、ガイドラインの範囲内で執行する中・長期の計画に関する書類を作成し、承認してもらい、資金源が決定されたプロジェクトを執行し始める。
- ホ) ガイドライン執行に関する化学技術的なプロジェクトを発注し、研究を開始する。

16.2. 第二段階は2001年-2008年までである。この段階には以下の仕事をする。

- イ) 遊牧業から生産する伝統的な乳製品の生産量を上昇させ、市場への供給量を増加させるとともに環境的な新種の製品を生産し始める。
- ロ) 牛乳・乳製品の生産量を上昇させるために新機械・技術を導入し、乳製品を生産する簡単構造の機械を国内で生産制度をつくる。
- ハ) 牛乳用酪農場を税政策、投資政策、融資の政策によって支援する法的な環境を構成する。
- ニ) 効率的な酪農場が形成され発展するとともに機械化、電氣化程度が向上し、一年中に牛乳を生産できる環境が整備される。
- ホ) 草刈り、飼料をつくる、作物をつくる、牛乳・乳製品を生産、販売する目的の酪農場間組合を支援し発展させる。
- ヘ) 牛乳を生産する中小工場を建設し、乾燥・濃厚化された牛乳の生産を増加させ、乳製品の輸入量を減少させる。
- ト) 家畜を結核病から予防する措置をとる。

- チ) 乾燥・濃厚化された牛乳で国内の需要を十分に満たし、カゼイン塩、生馬乳、無脂肪乾燥牛乳などの製品を輸出する環境が整備される。

第8章 ガイドライン実施に期待する効果

17. 近年に現れる直接効果

- イ) 搾乳家畜の範囲が拡大され、牛乳搾乳量が増加する。
- ロ) 都市付近に効率的な酪農場が稼働し始める。
- ハ) 牛乳・乳製品の生産、販売水準が上昇し、国民の食品供給が改善される。
- ニ) 国民に食品安全性のある牛乳・乳製品を提供し、健康・衛生検査が改良される。

18. 間接効果

- イ) 各地に仕事場が増加し、国民の貧困削減に影響を与える。
- ロ) 国民、特に遊牧民の貨幣的所得の増加を促進する。
- ハ) 食生活に占める牛乳・乳製品の割合が増加することによって国民の健康状況に良い影響を与える。

モンゴル国における食品産業の発展過程

モンゴル国の歴史を背景とした、食品産業の発展過程を人民共和国として建国宣言（1924年）した以降から追ってみたい。

この頃は、革命初期のため軍隊や病院、学校などに食事を供給すること、また、国民にパン、菓子、小麦、米、ミルク、油などを供給することがまず課題であった。従って、第一に外国人が経営する食品工場や関連施設を国営化し生産された製品を安定的に供給する必要がある。それとともに、新たな食品工場の建設や熟練労働者の育成により、あらゆる生活のための製品を生産すること、例えば屠殺、腸詰、石鹼生産、酒造など大蔵省の施策として展開された。これらのことは、すべてソ連の支援により成り立ったものである。さらにソ連からは、小麦、米、茶、砂糖、菓子などの食品が多く輸入された。

政府は、施策として外国人からの債務を棒引きにし、一方、関税や税金の賦課を実行し、そのことにより国の経済の基礎を完成させ、食品産業の近代化の基礎を築いていた。1924年12月、モンゴル国に産業省が設置され、牧畜や農業の生産・販売、輸送が管理されることとなった。

1930年頃は、大蔵省、牧畜農業省、ウランバートル市協同組合などが、牧畜や農業、飼料の生産、酒造、製菓工場、屠殺センターを管理していた。その当時は、菓子は国内で1日、3~4トン、砂糖600kg、麵300kg、春雨200kgなど併せて30近くの食品を生産し、200万トンの内臓を輸出していた。また、ハムの生産を始めたのもこの頃であり、畜肉コンビナートとして、家畜場(3ヶ所)、屠殺場(2ヶ所)、内臓加工場(9ヶ所)存在していた。1940年に政府は、機械化により家畜屠殺加工の技術を高め、生産性向上や肉の品質検査に務め、牛肉や羊肉、内臓などの輸出振興策を進めることとした。

農業分野では、人民革命初期、農業に適した地域の土地を整備し、最初のコルフォーズ農場をセレンゲ県のズーンハラーに建てた。そして、小麦や大麦を増産するため、製粉工場を機械化することに着手した。1930年には通産省が設置され、その中に食品産業省が組み込まれることとなった。

統計的に見ると、モンゴル国の全食料生産は1924年に30万トグルクであったが、1940年には2300万トグルクと目覚ましい伸張をみせた。また、同年、食品産業は、全産業の27.7%を占め、4800トンの肉、400トンのハム、2700トンのパン、500トンの菓子・あめ・クッキー、789万2000リットルの酒・ワイン、1万3000リットルの水、400トンの石鹼、20万トンの内臓を生産していた。

1939年は、ハルハ河戦争（いわゆるノモンハン事件）が勃発し、モンゴル軍とソ連軍が日本軍を撃破したが、イタリア、ドイツのファシズムが台頭し、第二次世界大戦が始まろうとしていた時であった。

1941年頃、食品産業は、約450の工場が稼働し、2億6117万トグルクの製品を生産していた。第二次世界大戦のため、食料物資の困窮に際し、食糧事情を満たすものひとつになったものに乳脂肪の生産がある。ミルクや乳脂肪を加工する機械を外国か

ら購入し、牧畜農業省の中に 82 ヶ所の乳脂肪工場を建設し、1941 年に 264 万トン、1946 年には 300 万トンの乳脂肪をソ連に輸出した。

1942 年には、食品飼料生産省が設置され、その後 1961 年 3 月食品産業省（ベ、アルタンゲレル大臣）となる。その施策としては、県のほとんどの食品コンビナートを作ることであり、1943 年には高原地帯に 17 の製粉工場を作ることであった。この食品コンビナートは、パン、菓子、麺、砂糖、ハム、肉などを生産し、ミルクや乳脂肪を加工するなどの役割を果たしていた。

1952 年には、ミルク工場が 1470 ヶ所、油の工場 264 ヶ所稼働し、5182 トンの乳脂肪を生産していた。

食糧生産は、年々増え、1947 年は 1941 年に比し 36 倍となり、労働生産力は 41% の伸び率を示した。主な食品を同年で比べてみると、肉・肉製品 28 倍、乳脂肪 12.4 倍、小麦、砂糖は 3.1 倍に増え、1950 年代前後には食品産業分野は全製造業のうち生産で約 40% を占めるに至った。

当時ソ連は、モンゴルのため、自国の技術産業省の支援によってウランバートルに畜肉コンビナートを建設した。このコンビナートは、130 頭/日の小型家畜、200 頭/日の大型家畜を屠殺する能力があり、また、肉・肉製品の冷凍保存倉庫やハム生産場など、モンゴル国では初めての大きな工場となった。

1948 年～52 年の間に国の施策として、45 ヶ所の市営乳脂肪工場(4760 トン生産)と 31 ヶ所の市営肉工場(約 100 万トンの内臓を輸出)を建築した。

1960 年頃には、ソ連の技術支援によりウランバートル、ボルガン、ウランゴム、チョイバルサン市に小麦工場を建設し、年間 26 万 2 千トンの小麦を生産するに至り、モンゴルにおける小麦の需給をすべて満たすようになった。

また、食品産業省の中に博士大学を建て 1954 年から食品専門コースを設置し、学ばすこととした。

モンゴル国が、1962 年にコメコンに入り、社会主義の仲間入りをしたことは、食品産業の発展に大きな影響を及ぼすこととなった。具体的には、1966 年～1970 年にかけてウランバートルの肉缶詰コンビナートをドイツ民主共和国、ドルノドの畜肉コンビナートをブルガリアの技術経済支援で建設した。ソ連の支援では、ウランバートルの酒、ビールのコンビナート、ダルハン、ドルノドの食品コンビナートを建設し、ハンガリーの支援でハラホリンの小麦工場を拡大させた。

1968 年には、軽工業食品産業省を作り、生産ノルマの達成するため、給料のほかボーナス加算の仕組みを作り生産性の向上に励んだ。

1970 年には、食品の検査センターを建て、ソ連の無償援助の資金で技術検査研究所をつくり、1976 年に産業微生物生産検査センターを設立した。

1980 年代に入ると、食品生産に関して、目録や包装のための厚紙箱、袋の役割を果たす容器や包装の工場を食品産業図案研究所の隣に建て、袋やペットボトルの新しい技術で、食品の包装が一新した。

1975～1990 年には、120 億トゥグルグの資金を得て、ほとんどすべての県に食品の新しいコンビナートを、オリアスタイとサインシャンドに肉加工工場を、ウランバー

トルにパンや砂糖のコンビナート、ミルク工場や粉ミルク工場、エルデネトに食品コンビナート、ダルハンに小麦コンビナートを新しく建設した。

1994年には、モンゴル国から毎年20万頭の馬をソ連に輸出していたのをやめ、馬の肉だけ輸出するようになり、馬の肉加工工場をフィンランドの技術支援で建て、稼動し始めた。

1960～1990年は食品産業が最も発展した時期であり、この期間に技術水準が上がり、質もよくなり主な食品の生産も増えた。

1986年には、政府から農牧畜業を発展させ人々の食品需要を満たすためのプログラムが出された。これにより豚や鶏、蜂の飼育システムを発展させ、個々の集落に小規模の工場を建てることができた。

1960～1990年に肉製品やハムの生産が年々増えたのは、内蔵や副製品を利用する技術を高める政策をとったためである。

1985～1990年には、飲酒者が多いために酒やワインの生産を制限する政策が行われた。そのため1990年の酒やワインの生産は、1980年より1000万リットル近く下がったが、ジュースの生産は4、4倍伸びた。酒やビールは国内需要以上の生産があったため、1990年にソ連やハンガリー、ドイツ民主共和国、ルーマニアに輸出していた。

当時の工場では、計画以上の生産を生み出すことができていたが、社会主義経済下のため、余剰を売り切ることはできなかった。これは食品産業に限ったことではなく、計画経済時代にはどの分野にも見られたことであった。また、生産者側に競争意識が薄く、ただ計画通りに生産してさえいればいいという考え方があり、これは生産技術や質を高めることに弊害となった。例えば、食品の種類や質を市場の欲求に合わせる必要があったが、この時代は計画経済によってのみ生産されていたので、パンに関して小さなパンや甘いパン、ブドウの入ったものなどが望まれていたが、実際には大きな丸いパンのみを生産するよりほかになかった。これは食品産業分野の小規模工場を発展させ、人々の生活に必要な物を満たすことを閉ざすこととなった一因である。

1990年代から政治社会の変化がソ連で起こり、モンゴル国にも影響が及び始めた。党中央委員会の会議や国民会議でいくつかの省を変えることが決められた結果、農牧畜業食品生産省がつくられ、生産組合がコンビナートや工場ごとに指導者を置く改革を行った。このようにして計画経済で行われていたことを変え、工場や産業に関する権利や責任を確認することが、収益の拡大に繋がるようになった。農牧畜業食品生産省は、食品産業分野の指導者、創始者、機関の設立者の質を高め、家畜の肉やミルク、乳脂肪の生産など食品分野の仕事を担当することとなった。

学者たちの研究調査などによると、1985年にモンゴル人の食料基準の81%が満たされていたが、1990年に94.6%が満たされることになってきた。これによると、1990年代頃はモンゴル人の食料品供給がある程度基準をみたしていたという程度であったという結論に至る。1985年にモンゴル人1人あたりの1日分のたんぱく質は88.4グラムであったが、1990年には4.83グラムと増加し、一般基準にかなり近づいてきた。

モンゴルで革新と民主化の萌芽が芽生えた頃、材料、機械の提供、投資施策などが外国からのものであったため、90年代初頭から食料工場の活動に支障が生ずることとなった。

1991年にモンゴルが市場経済に移る初の歩みがあったが、モンゴル国外の条件や国の政治制度も変わり、経済的にすべての分野が不景気の悪影響を受け、その中で食料分野はもっとも強い打撃を受けた。そして、食料品が不足し、全国で食料品はカードシステムに移った。

モンゴル国が市場経済に移った最初の3年間のデータによると、1991年の総生産量は1990年より27.5%、1992年には59.9%、1993年に68%それぞれ減少した。食糧生産は1992年に91年より、23.5億TGで、93年には前年より5.8億TGで減少し、食糧分野の生産量は1970年の程度まで下がり、総生産量の13.5%と落ちた。これらによると、モンゴル国で食糧生産の落下がおき始めたのは91年からのことである。農産業における国内生産が91年から95年にかけて減少し、国内需要の大半が輸入に頼る状況に至った。これらによると、食糧生産下落のピークは1992年から93年であったことがわかる。

食料分野全体のデータによると、95年に食品の生産が増加したのは、国からの様々な方途や、新しく可決された「食料について」といった法律を施行させるための国からの施策の結果であると考えられる。その他、食料品の生産、商品の輸出に対して、所得税、関税、商税の措置をとったことの結果である。

しかし、95年頃、銀行と財政制度に破綻が起き、生産者らを財政施策で支援することが出来なくなり、結果として国内生産を維持するための国の施策が失われ、輸入の関税をゼロにしたなどの原因により、国内食品生産が95年より減少することとなる。食肉の生産は96年から減少し始め、99年は95年より62%減少した。小麦粉の生産が96年に前年より42.7%減少しているのは農業分野の落下の現われである。乳製品の生産は96-97年に落下していたが、98年にはやや増加に転じた。

現在、96年の選挙後に新しく出来たモンゴル内閣が「緑の革命」野菜の栽培を目的としたプロジェクト及び「白い革命」といった乳製品の生産の増加を目的としたプロジェクトが実施された結果、乳製品と野菜の生産が増加してきている。

モンゴル国における食品産業関連団体・企業及び公的機関

1, 食品関連団体

- (1) モンゴル食品産業協会 (Mongolian Food Industry Association)
- (2) モンゴル肉製品協会 (Mongolian Meat Association)
- (3) 乳業協会 (Milk Industry Association)
- (4) 乳製品加工協会 (Milk Processing Association)
- (5) ダルハン畜肉輸出会社 (Darkhan Meat Expo Company)
- (6) クンス技術会社 (Khuns-Tech Corporation)
- (7) 科学技術大学食品バイオ研究所 (Food and Biotechnology Institute of Science and Technology University)

2, 食品関連企業

Darkhan khuns 株式会社

当社の基盤は旧ソ連の機会・経済援助により創立され、1971年創業されたダルハンフンス会社である。Darkhan khuns 株式会社葉パン、粉製品、砂糖類、牛乳、乳製品、飲酒、ジュース製造を行う食料製造工場である。創業し始めてから整備を何回も変改した。

会社の建築はライフライン整備が良く、以来に拡大する可能性がある。1992年から株式会社として組織され、1997年にTsakhiur グループは株化の管理部分を所有することになった。

住所：ダルハン市、ダルハンフンス株式会社

Tel, Fax: 27747、976-1-687511

Buudain tsatsal 株式会社

旧ソ連の援助により1961年に建てられた粉製工場は当社の基盤となった。1968年に栄養物製造工場を創立した。1975、1980年に技術の基本的な整備を変改した。1992年に株式会社として組織され、1998年に完全に私有化された。

ここ数年農業を扱い、小麦の多額を自己製造する事になった。モンゴル国家功労働者ネルグイは35年も当工場の長官をしている。また、モンゴル国家労働英雄のドリグスレンは工場の最初の長官であった。

住所：ヘンタイー県、ウンドルハーン市、

Buudain tsatsal 株式会社

Tel: 3055、3716

Sawan treid 株式会社

1923年に石鹼を生産し始めた石鹼工場を基盤とし、1968年にウランバートル肉加工工場を分離されて生産活動を行っている。現在の工場は1982年にイタリアや旧ソ連の援助整備により設立された。

各種の石鹼、いくつかの化粧品の生産を扱っている。工場建築において、これから拡大し、新しく整備される可能性を持つ。

住所：ウランバートル市、トルゴイト、

ソングノーハイイルハン区

Tel, Fax: 632257、976-1-632257

Khunsnii uildver 有限株式会社

1992年に食料工場のエンジニアのドブドン氏の主催で設立された。ドイツの整備で施設された。ハムや肉製品、アイスクリーム製造、小型家畜の小腸を加工する事業を行っている。生産物を輸入している会社の一つである。

住所：ウランバートル-39、バヤンズルフ区
Tel, Fax: 453910、976-1-363736

Delgerkhangai 有限株式会社

1990年にDelgerkhangai共同組合という名で創立され、1991年から不完全株式会社となり、1996年有限会社として活動している。ハム、肉製品の製造はドイツの整備によって行われ、現在一日に400-800キロ製品を製造している。

当社の製品質は保証されているため、消費者の気に合っている。会社は肉製品をウランバートル市の大きなレストランに供給している。Delgerkhangai 会社は1997年に消費者信頼パートナーの証明書、また都市の優秀工場とした証明書も提供された。

住所：ウランバートル-211049、
エンフタイワン通り、16
Tel, Fax: 458515、976-1-458

Khunsnii uildver 株式会社

1992年に創立された。ハム、肉製品、小腸加工工場を営業している。食料技術方向で研究事業を実施している。

住所：ウランバートル-211049
Tel, Fax: 458370、350155、976-1-458370

Eye ev 有限株式会社

1993年にパン、製粉品、豚肉加工を目指し設立された。1996年から飲酒製造に従業するようになった。2000年からKhuns tex 株式会社と結んだ契約に応じてオルゴーというお酒を製造し始めた。

住所：ウランバートル、バヤンゴル区
モンゴル牧業連合所
Tel, Fax: 635503、976-1-687535

TBD anduud 有限株式会社

当社は1993年に創立され、1997年に1728平方キロ面積の生産・サービス営業所を創立したことは都市の商業中心の一つとなった。

TBD anduud 会社以下の方向で活動している。

- 家畜を養む
- 肉や肉製品製造
- 農業、製粉製造
- 国内外
- 外国60余りの会社と協力し商業を行っている。1999年に都市内優秀民間企業となった。

住所：ウランバートル市、バヤンゴル区
Tel, Fax: 361192,361547、976-1-361055

“Erdenet khuns”株式会社

1981年にソ連の援助でエルデネット市で食糧工業の第一部（パン、牛乳、製粉品）を創業したことで当社の基盤が置かれた。1984年に第二部を創業させ。ビール飲酒、ジュース等製造で事業を始めた。

1992年に株式会社となり、1995年に完全に私有化され、“Erdenet khuns”株式会社として事業を続けている。当社は1年に2000トンのパン、1100トンの製粉品、3000トン乳製品、40万リットル飲酒、4百リットルのビール、20万リットルのジュースを製造する能率があります。

住所：オルホン県、バヤン-オンドル村、バヤンツァガン町

Tel : 20151, 20152, 326209

Fax : 976-35-20151

“APU” 株式会社

1924年に基盤が作られた我が国の初めての工場である。1957年に拡大され、ウランバートル市の飲酒工場と名付けられていた。

1973年にソ連援助により飲酒、ビール製造の工場を創業させたことで当社の現在の基盤が置かれた。それ以来装置変えを行ってきた。1992年から“APU”株式会社として活動し、1998年に完全な私有化が行われた。工場建築措置は飲酒製造に適応した広く、現代的な条件通りに建てられたため、工場を拡大したり、新しい組織を作ったりする可能性がある。

住所：ウランバートル-36 チングス通り

Tel : 344347

Fax : 976-1-343063

“Spirt bal buram” 株式会社

アメリカ出身の女性がまずアルタンブラグ村で、ズーンハラーでアルコール工場を建てたことは当社の基盤となった。

当工場1942年国有化に移され、1959年に修理された。中国の援助によって建てられていたが、具体的な理由で中止されから1974年に再び設立されたことで当社現代の建築措置ができた。1973年に旧アルコール工場を当社に所属させた。

1992年に当工場は“Spirt bal buram”株式会社となり1998年に完全に私有化された。

当社の製造能率、構造：

- * アルコール工場は年間3百万リットルのアルコール、300トンの二酸化炭素を製造
- * 糖蜜工場は年間3千トンの糖蜜、400トンの小麦澱粉製造を
- * 食品工場は年間千トンのぱん、300トンの製粉品、千トンの乾燥めん、10万リットルの飲酒、10万リットルのジュースなどを製造できる。

“Talkh chikher” 株式会社

当代のソ連援助により設立し、1984年にウランバートルのパン-砂糖工業として創業させた。1992年以来“Talkh chikher”株式会社として生産事業を実施している。

当社はウランバートル市民用のパンや全国的に各種のお菓子や砂糖、薄膜などを製造し、供給するも目的で作られた。

工業構造：

一泊に90つのパン、1年に7500トンの砂糖品、1200トンの乾燥めんを製造する4つの工場がある。工場の施設建築は食糧生産の条件を満たし、ライフライン良いため、設備新変することで製品量を増加し、種類を広げ、製造構造を変える機械が広がる。

住所：ウランバートル-210537

Tel : 631337, 631955

Fax : 976-1-631580

“Ogooj chikher boov” 株式会社

当社は1936年にアマガラン町で設立されたパン-お菓子製造の小さい所から発生した我が国の最初の工場の一つである。1958年にソ連の機械-経済援助により新しい工場を設立し、砂糖類工場として創業してから製造範囲が益々広がってきた。当工場は我が国のパン-差糖類において初めての手動的な工場である。

当工場は1991年から国有分離の“Ogooj chikher boov”株式会社として組織された。1958年から工場機械を常に新変し、製造糧や製品類を増やしてきたが、それはここ数年モット活発されている。

“Ogooj chikher boov” 株式会社は各種の製粉品、砂糖、お菓子、乾燥めん、ハム、乳製品等の10種ぐらいの製品を製造している。特に、伝統的なお菓子を作っている大きな工場となる。

住所：ウランバートル-210644

Tel： 325608、325324

Fax： 976-1-322790

“Atar orgoo” 株式会社

当社は1941年にウランバートル市で設立されたパン屋から発生した。1965年にソ連の援助で設立されたパンの工場は現在の当社の基盤となった。これは我が国のパン製造の初めての手動工場であった。

1975年に工場を拡大し、パン製造の第二部を創業させた。1992年から株式会社として組織された。当社は一泊に60トンパンや製粉品を製造する能率を持つ。また、ナライフ区、ジャラガンと村にて支社を作った。

住所：ウランバートル-36 チンギス通り

分野指導会社

“Khuns tekh” corporation

1970年食糧工業実験 研究センターが創立され、それに基づき当社が設立された。1973年に事業範囲が拡大され、食糧軽工業の科学研究 設計所を設立した。

1988年に食糧軽工業の科学研究機関を分野別に分離し、食糧工業の科学研究 設計所を設立した。1979年に食糧研究所を創業させたことは実験や研究事業を現代段階に応じて実施させる一歩となった。市場経済移行状況に適應させ、1997年に食糧工業の科学 製造の“Kuns tekh”会社として新設した。

事業活動の基本方針：

- 伝統的で現代科学技術の進歩に基づき種動物原料を加工する新技術を作成すること。
- 食糧各種の技術を伝達すること。食糧品質や安全性を評価し、国家基準を作成すること
- 食糧小企業の機械資料を作成し、機械を創造すること
- 国家基準、測定所の確認により各種の食料品に品質検査を行い、結果を出すこと
- 食糧工業分野に対する政府対策の作成を協力する
- ハム、肉製品、パン、お菓子、発酵小企業で新技術を試し撮り、把握するための学習を行うこと

住所：ウランバートル-36、ハンウル地区

“Khuns tekh”会社

Tel：341037、Fax：976-11-342337

技術大学の食糧技術学校

モンゴル国立大に所属される技術大学で1971年以来食糧工業の技術や食品 公共食事専門家を養成し始めた。1995年2月1日に食糧技術及び食事製品 サービス技術という2つの学部から成り立つ技術大学の食糧技術学校を創立した。食品、食事製造 サービス技術の基本的で専門的な研究室は9つで、1100冊の本や600冊の雑誌をもつ図書館、適用的に設備した3つの講義室、教育担当室、会計室、インターネットに接続されたコンピュータ室、コピー機やビデオ教材等で完全に施設された。基本的で専門的な教員が30名で、それらの3分の1は教育科学博士号を持ち、他員は修士号を持つ。

当学校の新入生数は1990年以来持続的に増加しつつあり、現在1000名の学習者が学んでいる。ドイツの食事技術大学、ロシアのウランウデ市の東シベリア技術大学、韓国のスンヤンカテリン設備会社、ベルギーのゲンティ大学、ニデルラントのワゲニソゲソ市の農業大学等と協力

してる。

住所： ウランバートル 42
Fax： 976-1-342337
E-mail： foodpr@mtu.edu.mn

科学、製造の“Monenzim”共同社

1976年にエンジモロギや微生物製造、実験研究所は肉産業の下に創立され、その後研究や製造範囲がもっと広げ、1987年に科学、産業“Monenzim”共同社となった。

当共同会社の科学研究者は家畜臓から薬用のキモトラブシンやパンキプツンを製造し、大きい家畜の胆汁干し、牛の胎児の血清を捕り、雌馬牛を干す技術を作成し、自分の実験産業に利用しながら国内外市場で購買している。

パンキプツン薬品を製造する技術は世界青年の知的な作品としての銀メダルを受賞し、科学研究者の Tserendev, Alimaa, Suvdaa らがモンゴル国家賞で受賞された。共同社の事業活動方向：

- 家畜原料エンジムの材料の加工、薬品生物製造の科学技術研究、実験、産業
- 乳児用食事、治療品、化粧品製造、購買
- 教育、技術伝達、産業、経営

住所：ウランバートル 210525、
“Monenzim”共同社
Tel, Fax: 976-1-632431

“Makh impex”株式会社

1946年にウランバートル市で“Makh kombinat”という名で創業始めた。1968年-1985年にドイツの機械、経済協力により完全に更新された。1992年から“Makh impex”株式会社として活動している。

ウランバートル市民の肉製品で供給し、輸出や輸入を基本活動として扱っている。

当社はモンゴル国で肉製品加工の一番大きな会社として最初に創立された。

工業構造：

家畜準備工業。一泊に800頭の大きな家畜、300頭の豚をばらすし、それから出る肉、内臓、他の副産物を加工し、冷凍する能率を持つ。一泊に16000トン肉を保管する冷凍庫事業を行う。

ハム加工業や缶詰所もある。1年に5百万の缶詰、5700トンハム製品を製造する効率を見せる。及び、自己供給の缶を製造する工場はある。

小腸加工工場で輸出のため家畜や豚の小腸を加工しているのは各国基準要請を満たす段階に達していると見なされる。

肉充填工場で一泊に40トンの肉製品を放し取ったり、分離したり、充填したりする。また、当社は家畜原料、生産物に化学や白金研究をする現代的な研究室を施設した。

“Makh impex”株式会社は我が国のインフラ開発的な工業の一つである。

住所：ウランバートル 25、チンゲルテイ地区
第4町、Tel, Fax: 976-1-632517

“Darkhan makh expo”株式会社

ハンガリーの機械 経済協力により設立され、“Darkhan makh combinat”と名付けられ、1974年7月から創業した。1992年から株式会社として活動している。1995年に工業冷凍体制を日本の機械で整備された。1996年に30トン肉や副産物を完全に冷凍する工場が作られた。

一泊に350頭の大きな家畜や1300頭の小さい家畜をばらすし、それから出る肉と副産物を加工する能率を持つ。また、1年に900トンのハム製品、500トンの骨加工、39万の小腸を加工する工場は生産活動をしている。

住所：ダルハン市
電話：24535

“Altan taria” 株式会社

ソ連の機械 経済協力により1959年に創業したウランバートル市の製粉工業は当社の基盤となる。当社を1975年に新たに施設した。1992年に“Altan taria”株式会社として組織され、1997年に完全に私有化された。1997年以来工業の段階的に新変している内、最初に穀数清浄所を完全に変え、充填線を変えた結果ついで小麦粉を50、25、1キロで包むようになった。当社は現在、1年に3万トンの小麦粉を生産し、一斉に3万2千トン穀数物を保管する現代的な機械を利用している。ちなみに、当社の支社となる Agro-Pro, AT-Trade, AT-Building という会社が生産事業を行っている。

住所: ウランバートル 21137

Tel, Fax: 976-1-632057

E-mail: altantaria@mongol.net

3. 食品関連公的機関

- (1) 食料農務省 (Ministry of Food and Agriculture)
- (2) 国立特別検査庁食品安全農業管理課 (Food Safety and Agricultural Control Department of the State Specialized Inspection Agency)
- (3) 食料大学 (Food College)

